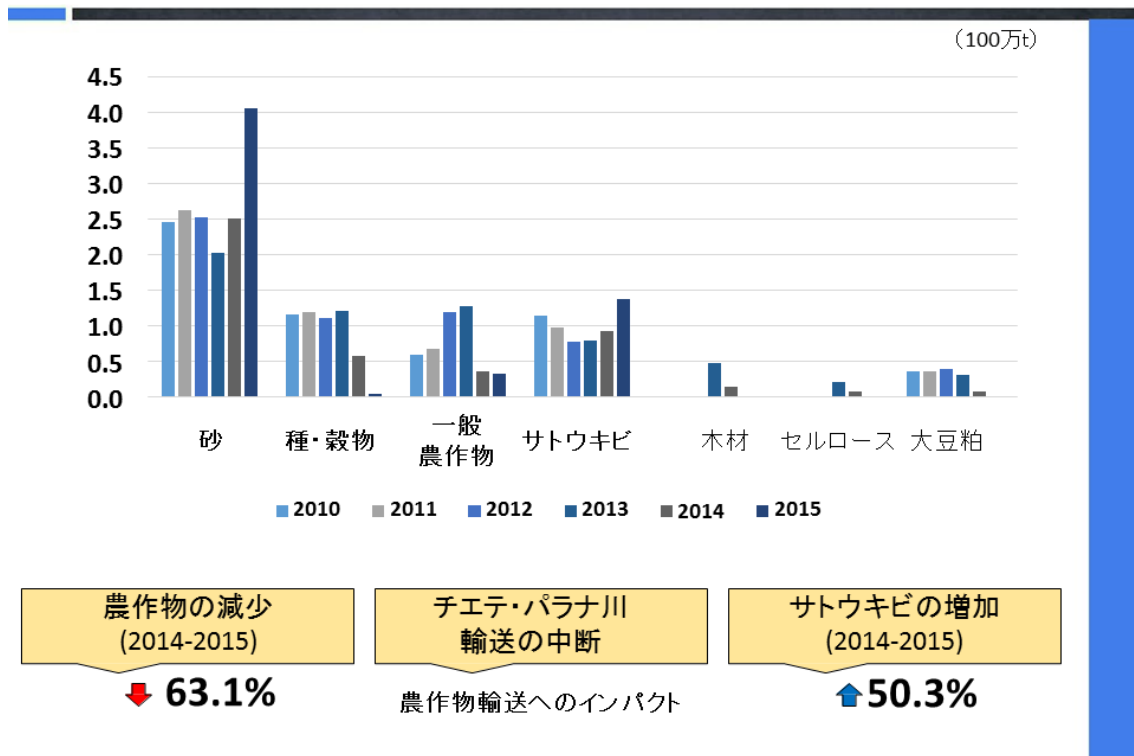


図表 61 パラナ州の河川輸送



2. 5 港湾

ブラジルの港湾は、経済活動の拡大と足並みをそろえる形で整備拡充が図られて来た。貨物量の取り扱いは10年間で5割増加、公営港と民営港の取扱貨物量では、後者の方が圧倒的に多い。年間成長率は公営港が0.7%の伸びに比べ民営港は6%近い伸びを示している。ブラジルの港湾オペレーションについては、従来から、混雑、非効率性、コスト高などの問題が指摘されており、今後、全国規模で港湾の拡張・拡大を図る動きにあり、港湾局の主要プログラムである Programa Nacional de Dragagem (PND) が策定され、国家港湾物流計画の制定について議論が行われている。

港湾インフラ分野では、主に貨物輸送の主役となっている大豆等の農産品や鉄鉱石等の積出港の整備が積極的に進められてきた。

- 1) 港運会社は多くが民間企業であり公的機関である港湾管理者から港湾の場所の一部を借り受けることにより事業を行っている。
- 2) 港湾料金は、港湾管理者が設定し、港湾条件の許認可などを行う諮問機関 (CAP) によって許可され仕組みになっている。料金の変更等については、ANTAQ の承認を受ける必要がある。

3) ターミナルは通常 24 時間 365 日運営され、通常の貨物検量は港湾に設けられた検量所で行われている。穀物類は、トラックや鉄道から荷下ろしを行う場所で検量される（港湾によっては黙視検量もあり）。尚、港湾関連の料金については、各港湾管理者のサイトでチェックが可能。

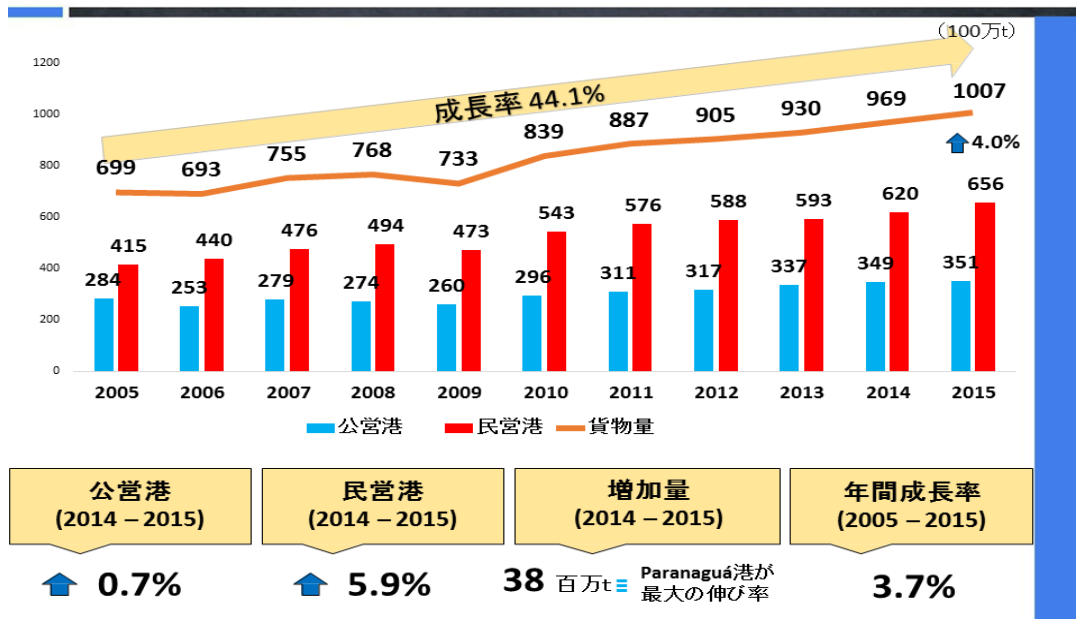
図表 62 はブラジル全土の主要港湾を示している。

図表 62 ブラジル全土の主要港湾



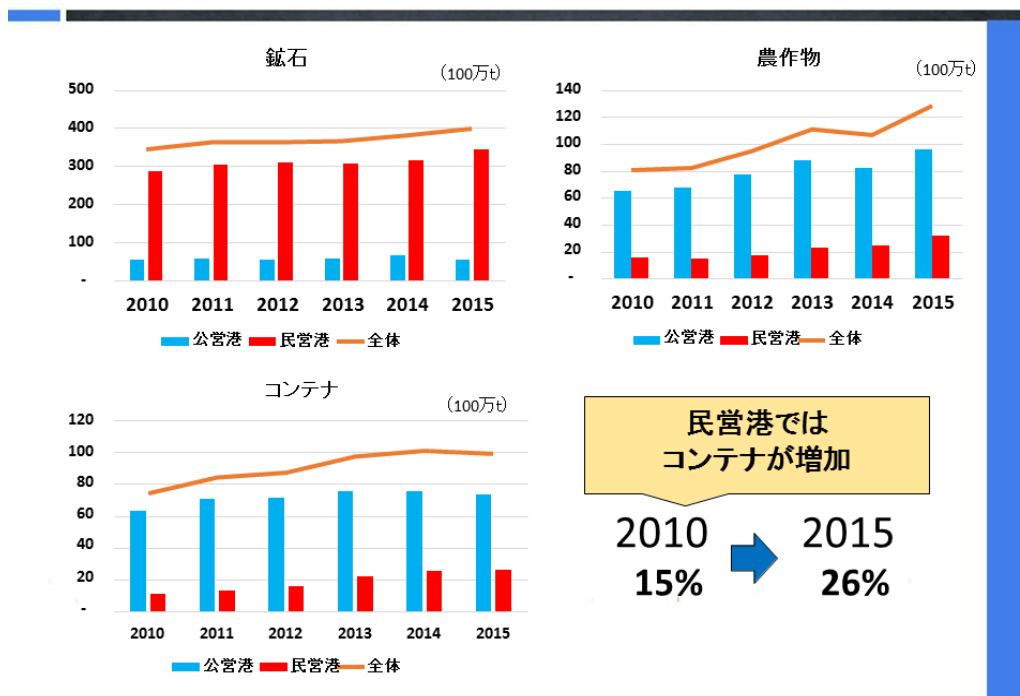
◎取扱貨物は民営港の方が伸び率が大きいことがわかる。

図表 63 公営港/民営港 扱い貨物量の推移 2005-2015



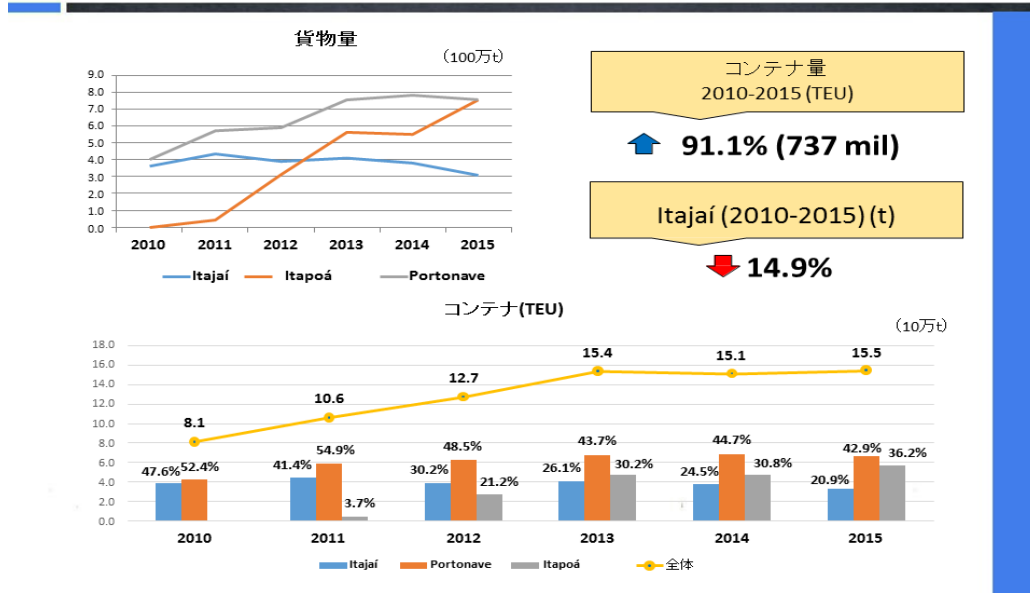
① 図表 64 は公営港と民営港の取扱う鉱石と農作物及びコンテナ貨物の荷役の伸びを示しており、農作物の伸び率が大きい。民営港では 2010 年のコンテナの扱い比率が全体の 15%であったが、2015 年段階で 26%まで増えた。

図表 64 公営港/民営港の荷動き (2010-2015)



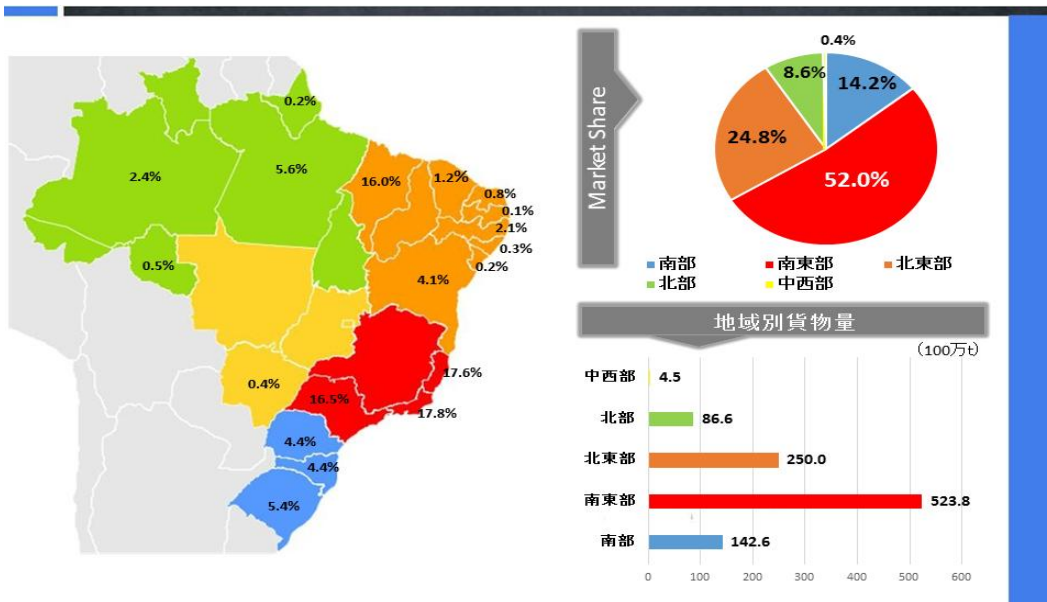
- ② コンテナ貨物も 5 年間を通し全体的に増加基調にあり、コンテナを扱う Itajai 港、Portonave 港、Itapoa 港の中では Itapoa 港の成長率が他を圧倒している。

図表 65 公営港/民営港 (Itajai / Portonave / Itapoa)



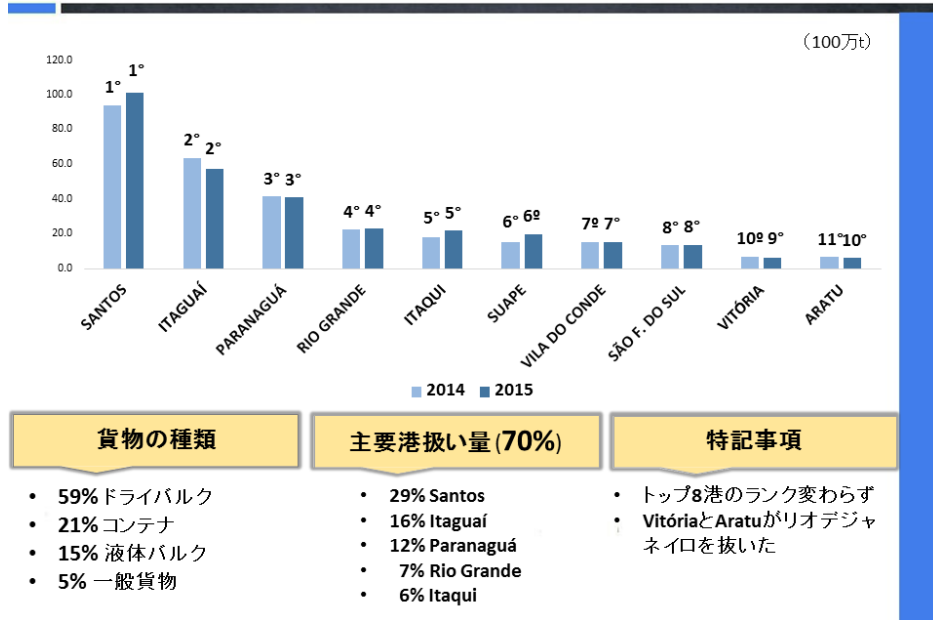
- ③ コンテナ貨物輸送の取り扱いはサンパウロ州、リオデジャネイロ州、サンタカタリーナ州などの大都市圏を持つ南東部が夫々全体の 16%以上と目立っており、全体荷動きの 5 割を占めている。北東部ではアマゾン河河口の重要港を持つパラ州が突出している。

図表 66 公営港/民営港の扱い貨物量のシェア



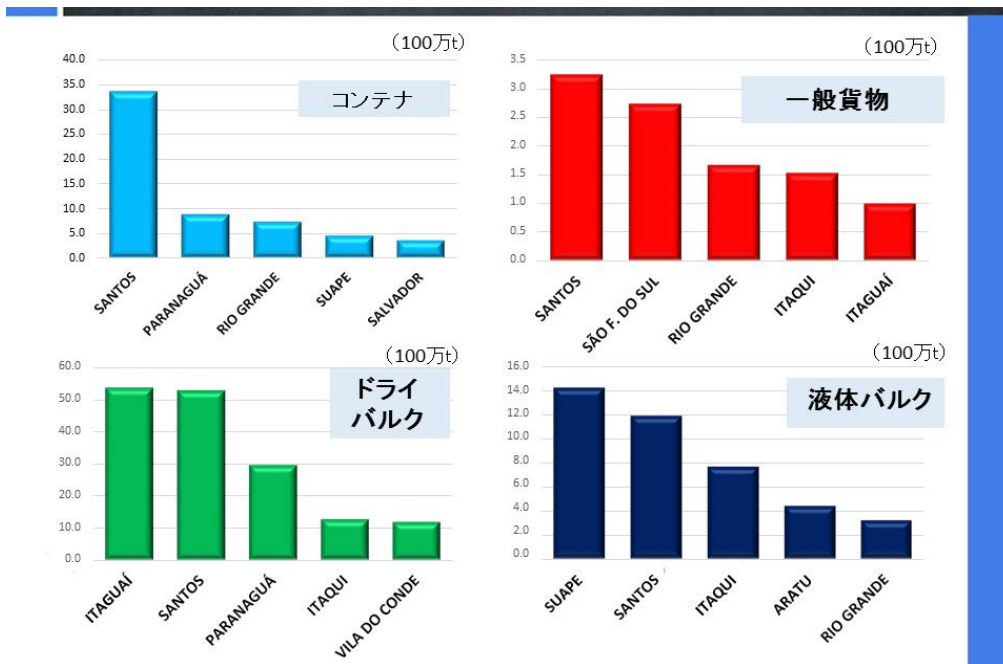
- ④ 2015年度の公営港の貨物扱い量では、サンパウロ州のサントス港が全体の3割近くを占め常にトップの座にある。公営港全体の扱い貨物は、ドライバルク貨物が6割、コンテナ貨物21%、液体バルク15%、一般貨物が5%の順になっている。

図表 67 公営港：荷役貨物量ランキング



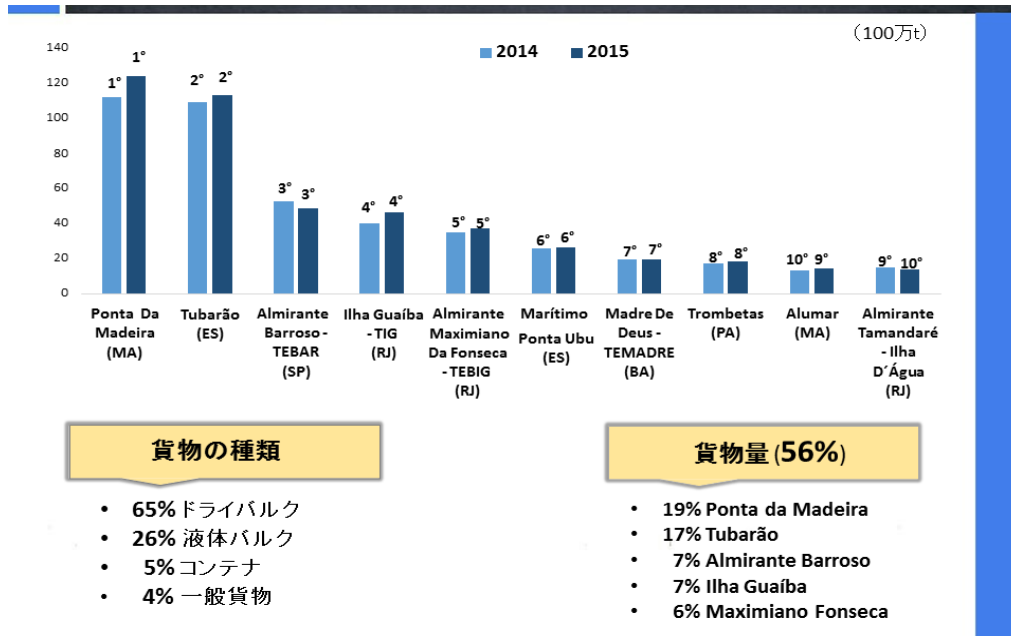
- ⑤ 公営港の荷役貨物別ランキングでは、コンテナ貨物と一般貨物は Santos 港、ドライバルクは Itaguaí 港、液体バルクは Suape 港となっている。

図表 68 公営港：貨物別ランキング



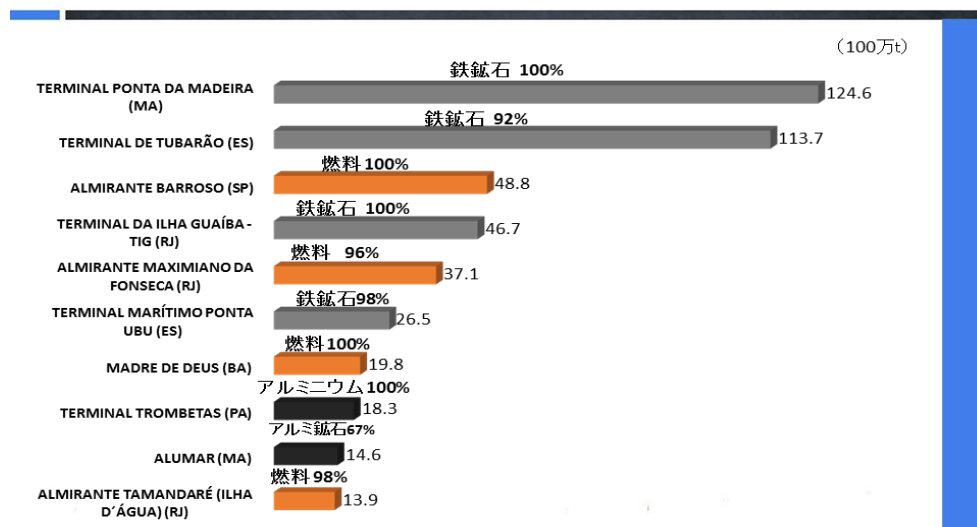
⑥ 民営港別の貨物取り扱いが多いのはドライバルク貨物で、扱ひ量は全体の 65%。民間企業が鉄鉱石や農作物の荷役に夫々専属のターミナルを運営しているケースが多い。

図表 69 民営港：荷役貨物量ランキング



⑦ 民営港の取り扱う貨物別ランキングで、上位には鉄鉱石を扱う鉄鉱石大手 Vale 社が使用するマラニャン州の Ponta da Madeira 港とエスピリトサント州の Tubarao 港が並び、第 3 位に燃料を扱うサンパウロ州の Almirante Barroso 港が続いている。

図表 70 民営港の貨物



2. 6 船舶隻数の推移

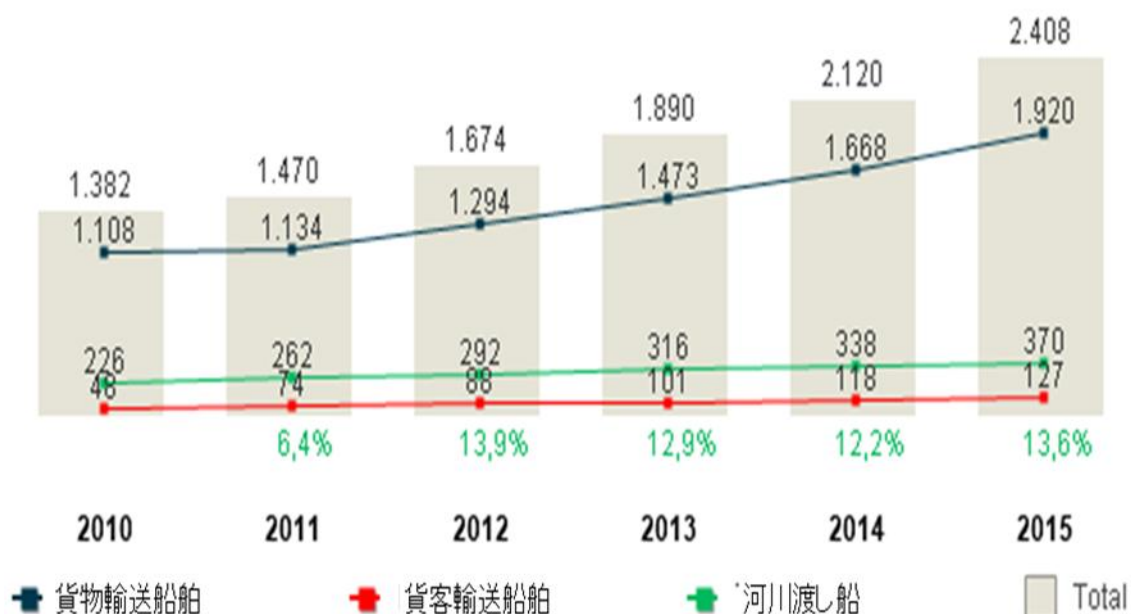
ブラジルの登録船舶数：2,408 隻（2015 年末現在）

河川小型船舶を含む総船舶隻数は毎年増加傾向にある。また、船舶分類では図表 71 に示されるように、貨物輸送船舶が 8 割を占めている。

図表 71 船舶隻数の推移

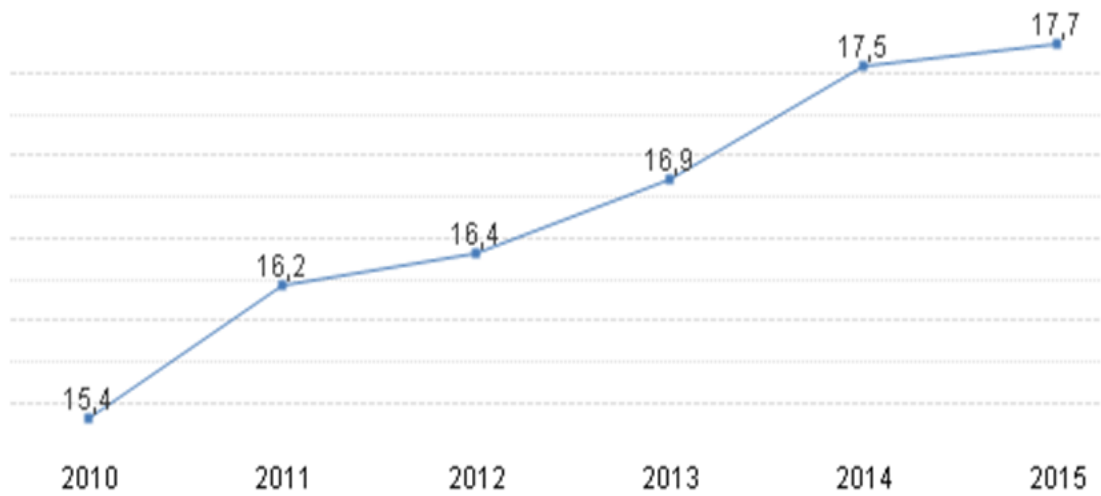


図表 72 船種別船舶内訳（2015 年現在）



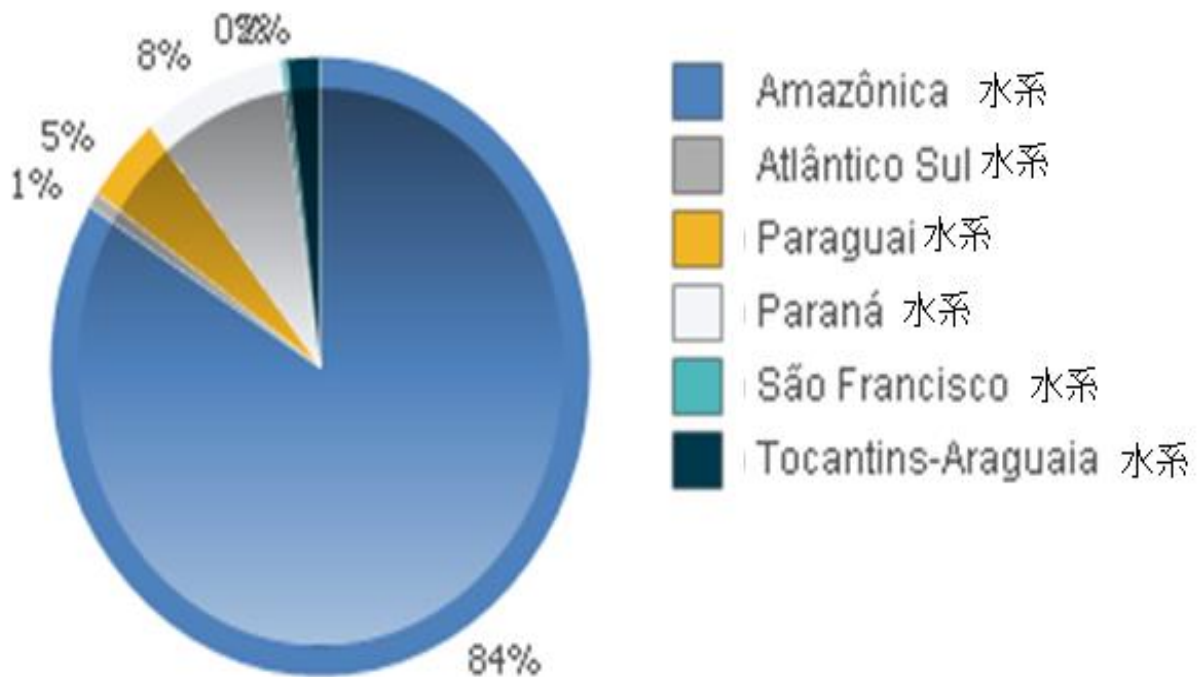
■ 平均船歳：使用船舶の船齢は 17 年を超える。

図表 73 平均船齢



■ 水系別河川船舶隻数の分布の割合：アマゾン水系が圧倒的に多い

図表 74 水系別船舶隻数の分布割合



第3章 石油ガス産業と海洋開発の動向

国家石油監督庁の発表によると、2016年12月末現在のブラジルの確認埋蔵量は、石油換算で125億14百万バレルと報告されている。（前年度末：132億79百万バレル）

内訳：オイル・コンデンセート	105億53百万バレル
天然ガス	3122億93百万立方メートル
計（石油換算）	125億14百万バレル

ブラジルの石油開発方式は1995年の石油法第9478/9496号に規定した“生産コンセッションの策定”で規定されスタートした。Federal Union（国家石油監督庁が窓口）が鉱区開発分野の統括監督機関として発足し、その後、2010年にプレサル鉱区の開発・生産を前提とした新法を制定、第1次プレサル鉱区の入札を契機としてSocial Fundとプレサル鉱区の開発に特化する専門機関PPSA（Pre-Sal Petroleo S.A.）が新たに設立された。PPSA社は、鉱山エネルギー省の監督の下、Union（連邦政府）に属するプレサル鉱区のガス・石油の生産協力契約のすべての管理・監督を取り仕切っており、国家石油監督庁（ANP）と共に、ブラジルエネルギー分野の基本政策の実施機関として活動している。

1998年に国家石油監督庁（ANP）が設立され、一般鉱区では翌年の第一次鉱区入札から第13次入札が実施済みで、プレサル鉱区の第一回入札も行われている。

3. 1 2017年度に実施予定の鉱区入札

国家石油監督庁（ANP）は、2017年度中に陸上の小規模鉱区、ポスサル鉱区及びプレサル鉱区の3回の入札を検討している。Filho 鉱山エネルギー相は今年度の入札による政府の臨時歳入総額が35億レアルから45億レアルに達する可能性があるとして年初に話している。

昨年12月、国家石油監督庁（ANP）の総裁がMagda Chambriand氏からDecio Oddone長官に交代した。Oddone新長官は35年間ペトロブラスに勤めカンポス堆積盆の開発などに携わった実務派で、2015年にペトロブラスからPrumo Logistica社に転じ、今回ANPのトップに指名された。昨年就任したFilho 鉱山エネルギー相、Parente ペトロブラス総裁と共にブラジルの石油天然ガス開発の舵取りを行う。

① 陸上小規模鉱区入札

今年1月、石油監督庁（ANP）が小規模埋蔵区の入札実施を発表した。対象は9エリアで旧油田のリハビリと石油・天然ガス鉱区を前提としている。対象となるのは、Espírito Santo 堆積盆、Potiguar 堆積盆、Recôncavo 堆積盆の3カ所にある鉱区で、5月にコン

セッション方式の入札が行われ、8月31日までに契約締結を予定している。この入札では、小規模独立系石油開発企業の参加が予想されている。

予定スケジュール：

- 1月　：入札実施発表
- 3月末：基本入札要綱の詰め
- 4月中：公聴会
- 5月　：入札要綱決定及び入札（現在の予定では入札実施は5月11日）

② 第14次鉱区入札

国家石油庁（ANP）は、10カ所の石油及びガスの開発地域の入札を予定している。対象となる地域：Garça Branca、Rio Doce、Rio Mariricu、Iraúna、Noroeste do Morro Rosado、Urutau、Araçás Leste、Itaparica、Jacumirim、Vale do Quiricó。候補海域は、生産鉱区が集中している海域に近くプレサル鉱区と同等レベルの有望な開発エリアになると期待されている。

③ プレサル鉱区入札

生産分与方式で実施される2回目の入札となる。

Temer 大統領は、プレサル鉱区開発分野における民間企業の投資参入を促進させる目的で、ペトロbrasに課されていた“全てのプレサル鉱区開発案件への出資義務規定枠”を取り外す新法を批准した。採択された新法はプレサル鉱区への投資を検討する企業にとり非常に重要な門戸開放となる最初のケースとして注目される。他方、Parente 総裁は、プレサル鉱区開発に関わる今回の新法が、ペトロbras社が進めている既存案件には遡及はしないことも確認している。

尚、従来から懸案事項となっているローカルコンテンツ規則の適用については、ペトロbras社を始めとする石油会社からの適用撤廃の声が大きいが、2月上旬現在決着を見ておらず、依然として様相は混とんとしている状況にある。鉱業エネルギー省や国家石油監督庁は、入札募集段階で規定された最低現地調達率を最終的にクリアした場合は、評価点数を加算し報償ボーナスとして認め他件にボーナスポイントを充当するような中庸策を考案しているが、まだ関係者を満足させるような具体案として受け入れられていない。

3. 2 これまでに実施された入札

① 第1次～第13次鉱区入札の対象地域は図表 75 に示される。

図表 75 第1次～第13次までの入札対象地域

流域	Round 1	Round 2	Round 3	Round 4	Round 5	Round 6	Round 7	Round 9	Round10	Round11	Round12	Round13
Acre-Madre de Dios											✓	
Amazonas		✓		✓					✓			✓
Barreirinhas			✓	✓	✓	✓	✓			✓		
Camamu-Almada	✓	✓	✓			✓	✓	✓				✓
Campos	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓				✓
Ceará			✓	✓						✓		
Cumuruxatiba	✓			✓	✓	✓	✓	✓				
Espírito Santo	✓		✓	✓	✓	✓	✓			✓		✓
Foz do Amazonas	✓			✓	✓	✓	✓			✓		
Jacuípe												✓
Jequitinhonha			✓	✓	✓	✓	✓					
Pará-Maranhão		✓	✓	✓		✓	✓	✓		✓		
Paraná	✓	✓	✓						✓		✓	
Parecis								✓			✓	
Parnaíba				✓				✓		✓	✓	✓
Pelotas				✓	✓	✓	✓					✓
Pernambuco-Paráíba				✓				✓		✓		✓
Potiguar	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
Recôncavo		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Rio do Peixe								✓				
Santos	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓				
São Francisco				✓			✓		✓		✓	
São Luís				✓								
Sergipe-Alagoas		✓	✓	✓		✓	✓		✓	✓	✓	✓
Solimões				✓			✓					
Tucano Sul										✓		
Total	8	9	12	18	9	12	14	9	7	11	7	10

② 第11次、第12次及び13次鉱区入札の結果：

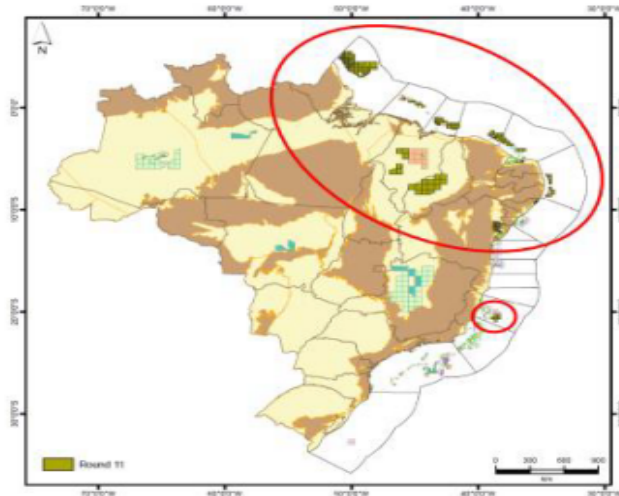
第11次入札参加に興味を表明した企業数は72社と過去2番目を記録した。

入札には最終的に39社が参加、総額28億リアル（当時の為替換算で14億米ドル）の落札額を記録、対象となった289ブロックの内、約半数の142鉱区が高額で落札されている。ペトロブラス社が最大の落札者（539.9百万リアル⇔当時の為替1米ドル約2リアルで約270百万米ドル）で、次いで、BGグループ（415百万リアル⇔207百万米ドル）、BP（261.3百万リアル⇔130百万米ドル）、Chevron（31.4百万リアル⇔16百万米ドル）、BHP Billiton（30.2百万リアル⇔15百万米ドル）の順となっている。外国大手石油会社の中には、ブラジル企業とコンソーシアムを組み落札している外資企業もある。この入札のハイライトは、ペトロブラス社（30%）、Total（40%）、BP（30%）がコンソーシアムで落札したブラジル北部のFos do Amazonas 鉱区の57ブロック（FZAM-57）で落札額は345.9百万米ドルとなり、過去の入札の単独ブロックとしては最高額を記録した。

パラ州では、Queiroz Galvão と Pacific 社のコンソーシアムが、ペトロブラス社を退け Pará-Maranhão 海盆の PAMA-M-337、PAMA-M-265 ブロックを落札している。

この入札では図表 76 に示されるブラジル北部、東北部のオフショア海域の開発に大きな注目が集まった。

図表 76 対象地域



盆地	州	面積 (km ²)
フォズアマソナス	AP	44,500
バラ・マラニャオン	PA, MA	4,616
バヘイリニャス	MA	13,074
セアラ	CE	7,388
ポテグアール	CE, RN	7,326
ベルナンブッコ・バラ イーバ	PE, PB	6,291
エスピリサント	ES	4,330
バルナイーバ	MA, PI	59,764
セルジッペ・アラゴアス	AL	733
ヘコンカヴォ	BA	475
トゥカノスウ	BA	6,455
ポテグアール	RN	588
エスピリサント	ES	179

総面積 155,718 km² (60,123 平方マイル)

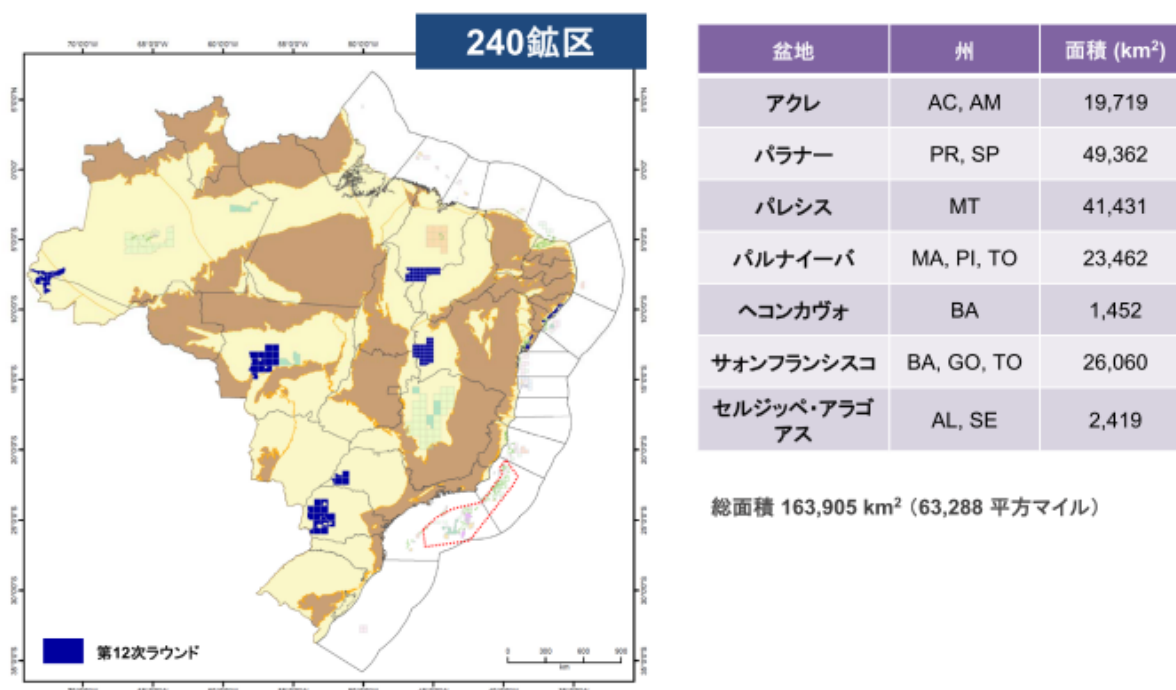
図表 77 落札者 (BG、Total、BP、Statoil など外国企業が上位を占めた)

Razão Social	Grupo	Origem do Grupo	Blocos Arrematados	Total de Bônus Ofertado	Total de PEM Ofertado (UT)	Total de PEM Ofertado (R\$)
Petróleo Brasileiro S.A.	Petrobras	BRASIL	34	R\$ 537.913.428,00	46.229	R\$ 1.328.442.800,00
BG Energy Holdings Limited	BG	REINO UNIDO	10	R\$ 415.500.000,00	6.672	R\$ 686.898.500,00
OGX Petróleo e Gás S.A.	EBX	BRASIL	13	R\$ 376.010.743,00	25.753	R\$ 699.231.400,00
Total E&P do Brasil Ltda.	TotalFinaElf	FRANCA	10	R\$ 371.932.453,00	7.466	R\$ 798.819.200,00
BP Exploration Operating Company Limited	BP	REINO UNIDO	8	R\$ 261.263.096,00	5.858	R\$ 626.806.000,00
Statoil Brasil Óleo e Gás Ltda.	Statoil	NORUEGA	6	R\$ 195.020.507,00	4.753	R\$ 508.571.000,00
Petra Energia S.A.	STR	BRASIL	28	R\$ 111.519.473,30	185.475	R\$ 745.547.600,00
Queiroz Galvão Exploração e Produção S.A.	Queiroz Galvão	BRASIL	8	R\$ 94.906.652,40	1.945	R\$ 208.125.700,00
Exxonmobil Química Ltda.	ExxonMobil	ESTADOS UNIDOS	2	R\$ 63.871.113,00	756	R\$ 80.892.000,00
Pacific Brasil Exploração e Produção de Óleo e Gás Ltda.	Pacific	CANADA	3	R\$ 58.491.370,90	1.230	R\$ 131.631.400,00
Premier Oil PLC	Premier Oil Group	REINO UNIDO	3	R\$ 49.044.726,50	1.638	R\$ 175.223.200,00
Ecopetrol S.A.	Ecopetrol	COLOMBIA	3	R\$ 44.558.050,00	949	R\$ 95.735.000,00
Petróleos de Portugal - Petrogal, S.A.	Galp Energia	PORTUGAL	9	R\$ 37.851.000,00	16.936	R\$ 126.283.000,00
Gran Tierra Energy Brasil Ltda.	Gran Tierra	CANADA	3	R\$ 33.330.000,00	7.378	R\$ 28.036.400,00
Chevron Brazil Ventures Aps.	Chevron-Texaco	ESTADOS UNIDOS	1	R\$ 31.358.050,00	560	R\$ 59.930.000,00
BHP Billiton Petroleum Pty Ltd.	BHP	AUSTRALIA	2	R\$ 30.150.000,00	932	R\$ 78.460.000,00
Compañía Española de Petróleos, S.A.U.	CEPSA	ESPAÑA	2	R\$ 30.100.000,00	1.181	R\$ 126.313.500,00
Brasil Manati Exploração Petrolífera Ltda	Brasil	BRASIL	4	R\$ 19.322.409,00	1.000	R\$ 40.176.800,00
Ouro Preto Óleo e Gás S.A.	Ouro Preto	BRASIL	3	R\$ 14.807.597,00	12.134	R\$ 52.843.600,00
Nova Petróleo S.A. - Exploração e Produção	Bolognesi Participações	BRASIL	5	R\$ 11.647.000,00	9.061	R\$ 34.431.800,00
Geopark Holding Limited	Geopark	BERMUDAS	7	R\$ 10.200.000,00	5.377	R\$ 20.432.600,00
Sabre Internacional de Energia S.A.	Asset Geo	BRASIL	3	R\$ 6.800.000,00	18.521	R\$ 70.379.800,00
Chariot Oil & Gas Limited	Chariot Oil & Limited	GUERNESEI	4	R\$ 4.256.572,00	484	R\$ 28.556.000,00
Cowan Petróleo e Gás S.A.	Construtora Cowan	BRASIL	6	R\$ 3.760.000,00	5.550	R\$ 21.088.100,00
UTC Óleo e Gás S.A.	UTC	BRASIL	3	R\$ 2.750.000,00	9.445	R\$ 35.891.000,00
Imetame Energia Ltda.	Imetame	BRASIL	7	R\$ 2.740.999,97	12.379	R\$ 47.040.200,00
G3 Óleo e Gás Ltda.	A.R.G.	BRASIL	6	R\$ 2.300.000,00	4.268	R\$ 16.218.400,00
Alvopetro S.A. Extração de Petróleo e Gás	Petrominerales	COLOMBIA	3	R\$ 1.088.296,32	4.192	R\$ 15.929.600,00
Iratí Petróleo e Energia Ltda.	Forbes & Manhattan	CANADA	2	R\$ 500.000,00	1.900	R\$ 7.220.000,00
Niko Resources Ltd.	Niko	CANADA	2	R\$ 212.112,90	68	R\$ 7.254.600,00
				R\$ 2.823.205.650,29	400.088	R\$ 6.902.399.200,00

◇ 第 12 次鉱区入札

対象鉱区は、Acre、Parana、Parnaiba、Parecis、Reconcavo, Sergipe-Alagoas、San Francisco 地域の 240 ブロック、163,905 平方キロメートル。

図表 78 第 12 次入札の対象鉱区



入札結果

ペトロbras社が単独あるいはパートナーシップを組んで落札したのは 49 ブロック。22 ブロックがコンソーシアムによる落札となっており、その内 16 ブロックでペトロbras社がオペレーションを行う。

落札額は、総額 143 百万リアル（当時の為替で 72 千万米ドル）（内 20 万リアルはパートナー負担）。ペトロbras以外では、Cowan、Petra Energy、Tucumann、Copel、Bayar、Geopark、Trayectria、New Oil などの各企業が落札した。

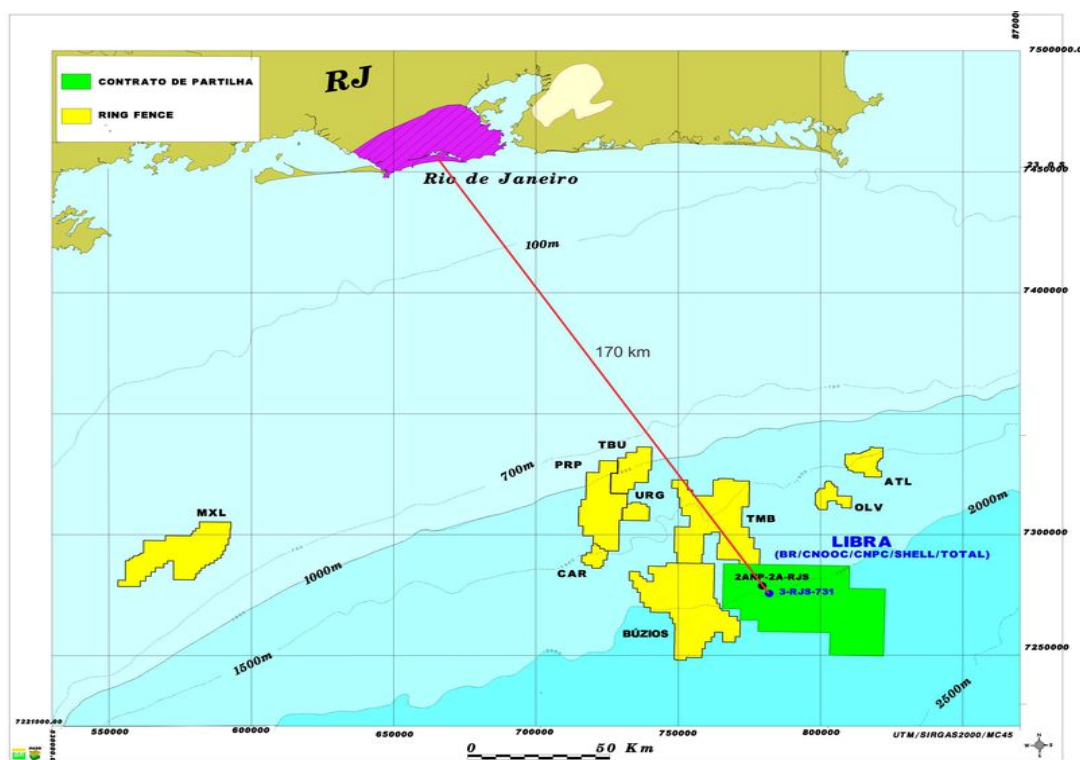
◇ 第 13 次鉱区入札

266 ブロックの入札を対象に実施された第 13 次鉱区入札は折からの油価の値下がりやブラジル経済の落ち込みで投資家の目を引かず、落札されたのは 2 か所のオフショアブロックと 37 か所の陸上ブロックのみで、結果は政府の期待に反してわずか 14%の落札率となり低調であった。

ペトロbras社や Shell、Exxon、BP、CNOOC などは入札に参加せず。事前審査に通過していた 40 社の中で入札に参加したのは 17 社のみで、そのうちの 11 社がブラジルの国内企業。

2 か所の海上鉱区は、Sergipe-Alagoas 堆積盆と Reconcavo 堆積盆にあるブロックで、両ブロックとも Queiroz Galvão Exploração e Produção (QGEP) が落札。落札額は総額 1 億 21 百万リアル。

◇第1次プレサル鉱区入札



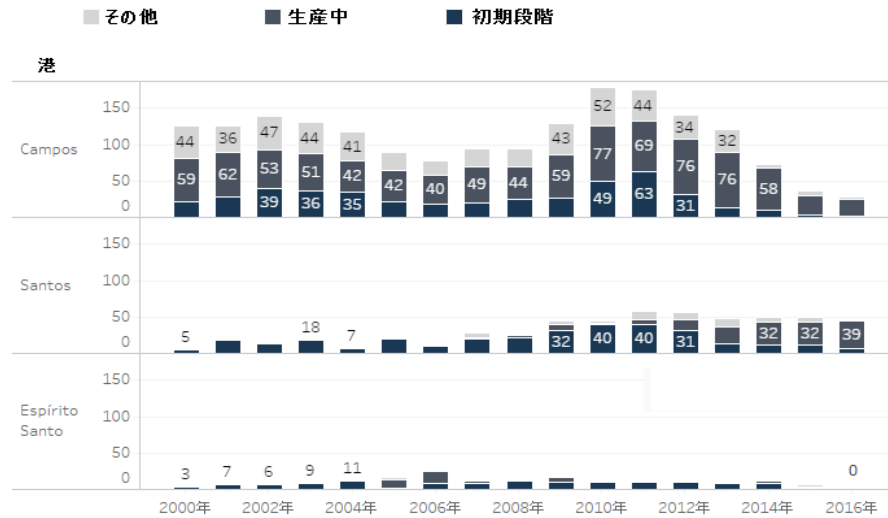
2013年、将来の国家エネルギー計画の柱とすべくブラジル政府が最も注力したサントス海盆のLibra鉱区を対象としたプレサル鉱区入札第1号案件が実施された。ペトロブラス社を中心とするコンソーシアムグループが単独入札を行い落札した。落札金総額150億リアル（約70億米ドル）。コンソーシアムメンバーは、ペトロブラス社（40%）、シェル（20%）、Total（20%）、中国国営のCNPC（10%）、同CNOOC（10%）。

3.3 海洋開発の状況

2000年以降2016年までのカンポス堆積盆、サントス堆積盆及びエスピリトサント堆積盆の掘削坑井数の推移を見ると、2015年度と2016年度の坑井数の減少が顕著で、開発件数が低調であることが窺える。

図表 79 掘削坑井戸数の推移

3大堆積盆の坑井数の推移



国家石油監督庁（ANP）は、2016年上半期の掘削件数は1957年以来の最低となる16坑井であったことを発表した。ペトロbras社の掘削本数はわずか9本で、その内3か所はLibra 鉞区で行われている。石油の生産開発に投資された資金は31%減少し69億2千万レアルの低水準であった。民間セクターでは、上半期で4社が掘削を実施、大手企業はRepsol Sinopec社のみ。

◇2017年度に必要とされる掘削船数

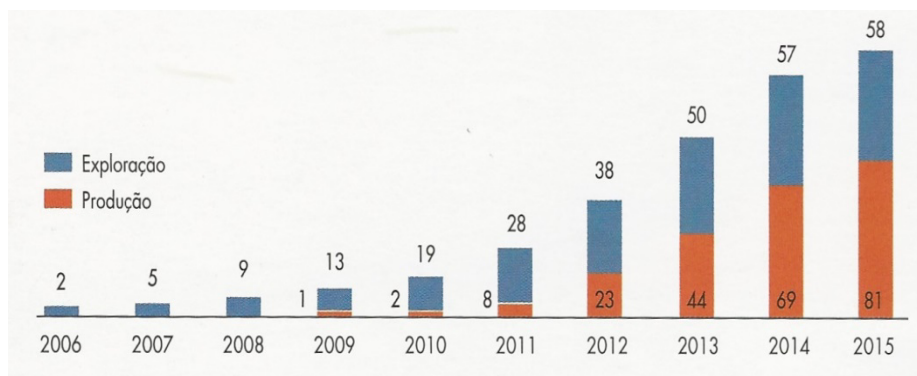
国家石油庁（ANP）の予測では、2017年度に掘削が予定されている坑井予定数はサントス堆積盆とカンポス堆積盆を合わせて71か所で、前年度の掘削スピードを経験値として照らし合わせると、サントス堆積盆には最低8乃至9隻の掘削船が必要となる。ペトロbras社が実施する掘削以外では、QGPC社が行うAtlanta 鉞区のみとなっている。一方カンポス堆積盆の坑井掘削には6隻乃至8隻の掘削船の投入が予定されている。

ペトロbras社によると、サントス堆積盆の今年度初期掘削にはSeadrill社のWest Tellus及びWest Carinaが投入される。エスピリトサント堆積盆では、2016年度に掘削が実施されておらず、2017年度は、Stat Oilとペトロbras社が第11次鉞区入札で獲得したブロックの掘削を計画中で、ペトロbras社が傭船する掘削船を充当するケースも想定される。北部赤道地域の掘削については、Totalが実施予定で現在掘削船の調達先を探している。また、BPも北部海域で2隻目の掘削船投入を検討しているが具体的な発表に至っていない。

上記各社の状況を踏まえると、2017年度に必要とされる掘削船隻数は、20隻前後になる。

全体の掘削数が減少する中、サントス堆積盆のプレサル鉞区における掘削数は図表80に示されるように年々増加して来ている。

図表 80 サントス堆積盆のプレサル鉱区における掘削数

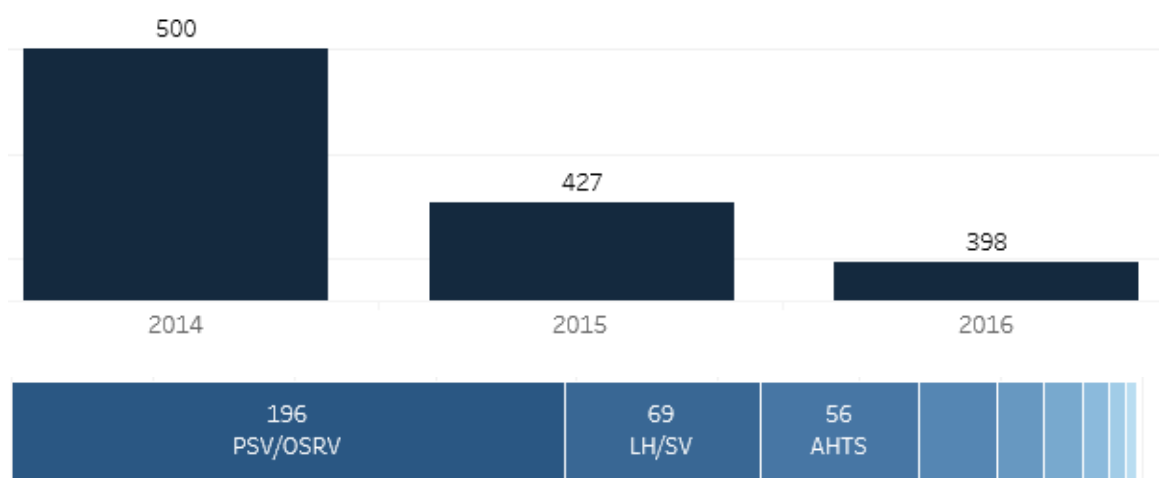


① 支援船隻数の推移

ブラジル支援船協会（ABEAM）の発表によると、ブラジル海域における 2016 年度末時点の支援船隻数は 398 隻で、前年度から 29 隻減少（-15%）、2014 年度のピーク時から 102 隻（-20%）の減少となった。

従来、全体の支援船隻数のほぼ 5 割を占めていた PSV 及び OSRV の隻数は、2014 年時点の 248 隻から、2016 年 12 月時点では 196 隻と大きく減少している。

図表 81 支援船の隻数

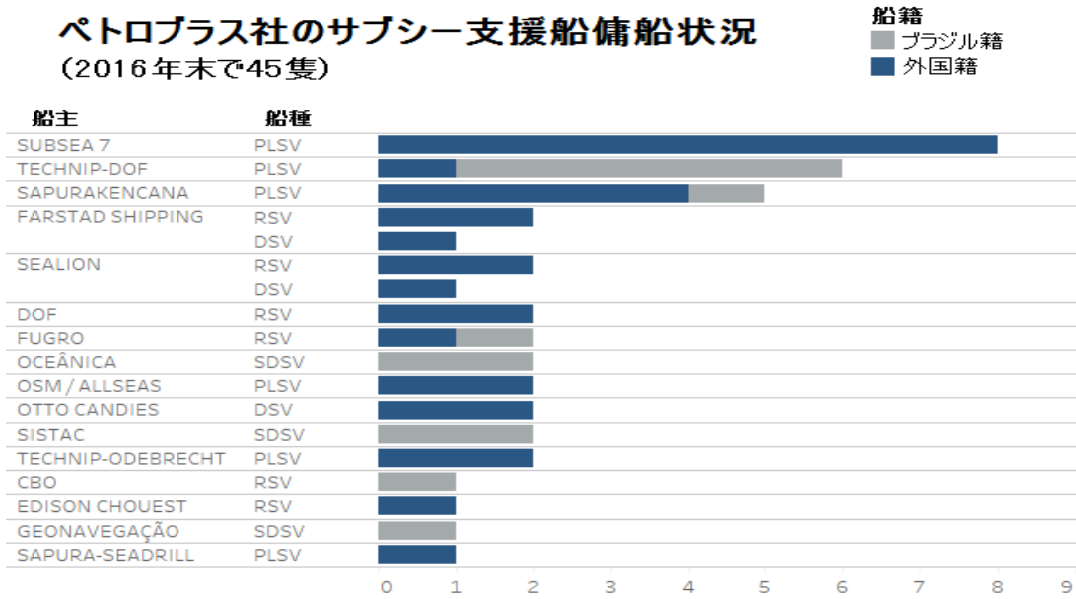


PSV/OSRV に次ぎ支援隻数で 2 番目に大きいシェアを占めるのは LH/SV で、2016 年末段階で 69 隻（全体の 17%）。以下、多い隻数順に AHTS56 隻（14%）、Crew/FSV が 28 隻（7%）の順になっている。

最大の減少は AHTS で 2014 年時点の 96 隻から 56 隻に 41.7%減少している。

尚、全体隻数が減少する中で、Crew/FSV のみが 2014 年（22 隻）に比べ若干の増加となった。2016 年度末時点におけるペトロbras社が備船中のサブシー作業支援船の内訳は図表 82 に示される。

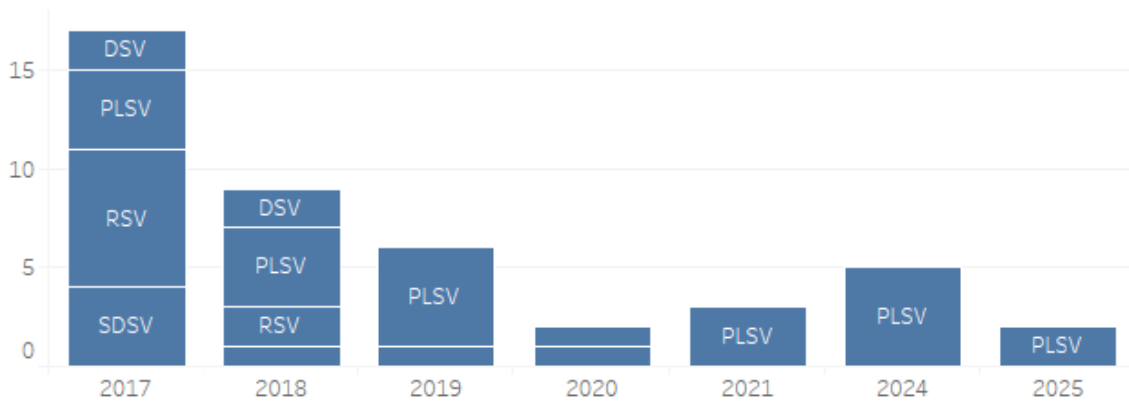
図表 1 ペトロブラスが備船中のサブシー作業支援船（2016 年末現在）



現在備船中のサブシー作業従事の支援船の半数は、今年度中に備船が終了する。

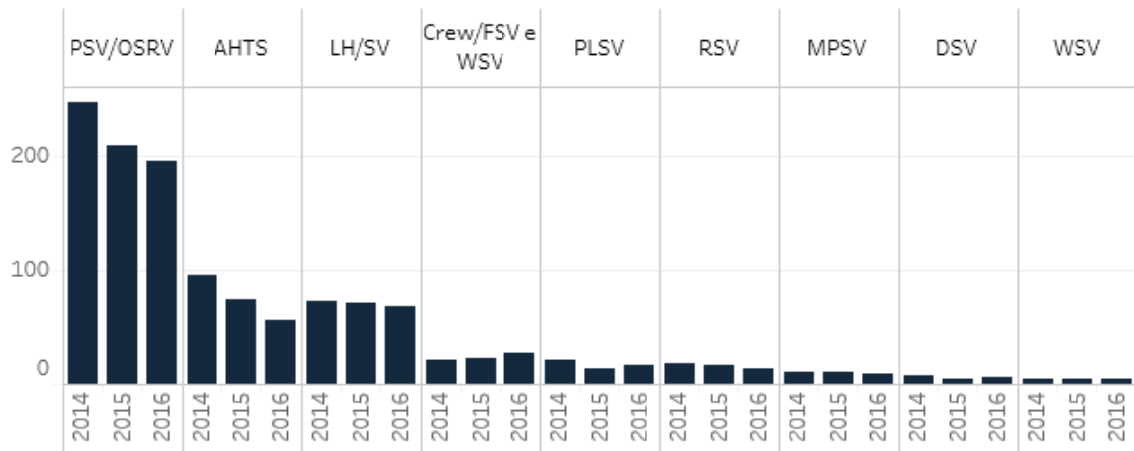
図表 83 サブシー作業支援船の備船期間

船種と備船契約期間の終了時期 (4割が2017年度に終了)



◇ 支援船の船種別隻数の推移

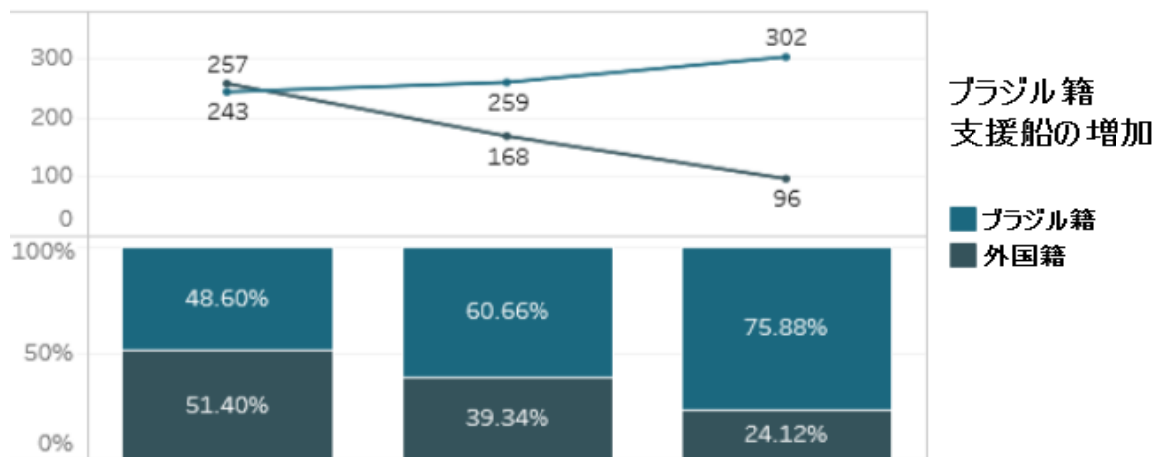
図表 84 支援船 船種別隻数の推移



◇ ブラジル籍支援船の割合

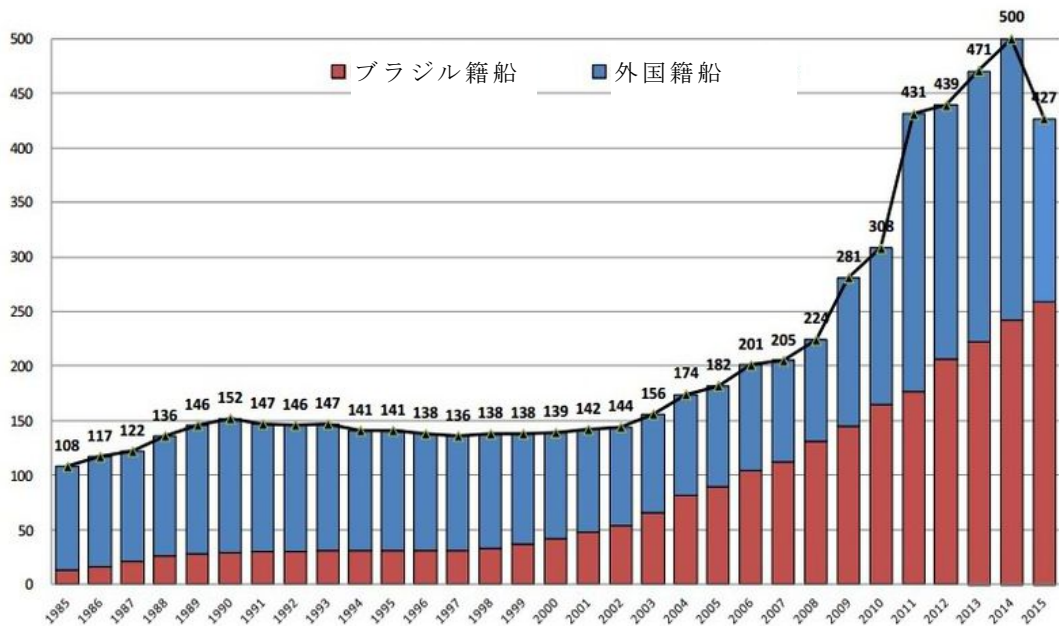
図表 85 に示される通り、2016 年末時点で、ブラジルで操業する支援船の中におけるブラジル籍船数が 2014 年時点の 243 隻（総隻数は 500 隻）から 2016 年末の 302 隻（総隻数は 398 隻）へと 30%増加した。48.6%から 75.8%へのシェアの増加については、ブラジルの E&P 活動が減退し外国籍支援船がブラジル国外の市場に回されたことに加えブラジル政府が自国籍船の積極活用を促したことによる。

図表 85 ブラジル海域にある支援船の隻数とブラジル籍船の割合



2015 年以前の支援船隻数とブラジル籍支援船の割合の推移は図表 86 の通りで、昨年度、7 年振りに総隻数が 400 隻を割った。

図表 86 ブラジル籍支援船の割合



2017年初以降傭船料も下がっており経営不振に陥るブラジル企業も出てきている。支援船大手の **Brasil Supply** 社もその一つで、2月半ば現在会社更生法の申請を検討している。同社は、2009年以降 FMM から 8 億レアルの融資を獲得し支援船の建造を進めて来た。同社は 2002 年に **Cotia Trading** (80%) と **Suzano** グループ (20%) により設立され、その後 **Petrobras Distribuidora** 社もマイナー出資を行い現在 0.38% 保有している。負債総額は 6 億レアルと報告されており、昨年度の売り上げ 1 億 1 千万レアルではこのままの経営が難しいと判断、債権者との間で話し合いが進められている。

第4章 ペトロbras社の動向

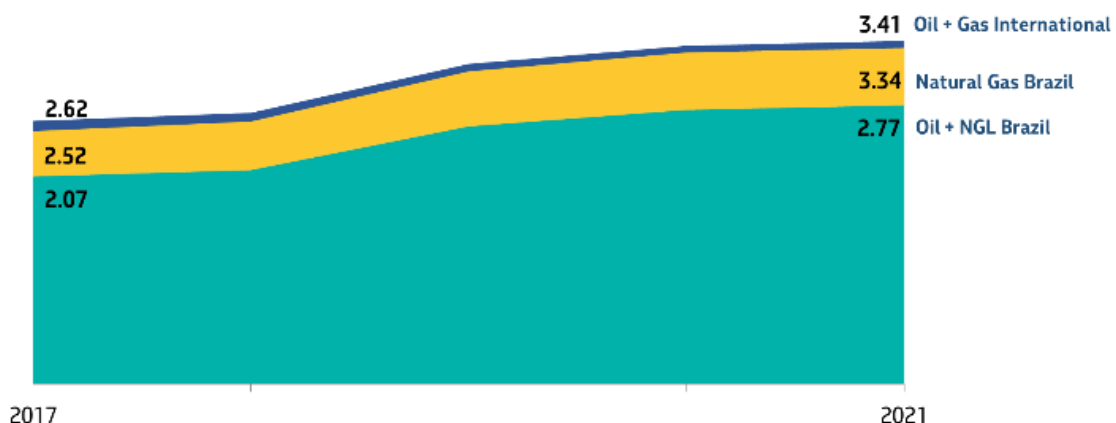
ペトロbras社の2016年度の1日当たりの石油生産量は2,144,256バレルで前年度を0.75%上回り目標（214万バレル）をクリア、天然ガスの生産量7,700万立方メートルを加えると石油換算で総生産量は263万バレルとなった。

Parente 総裁の下、新たな投資5か年計画が発表されており、従来の計画投資総額は25%減少し5年間で741億米ドルになっている。最大の投資分野は、従来プレサル鉱区開発を中心に開発・生産分野の606億米ドル、その内の75%を生産分野に充当、11%を開発分野、13%がそれら分野のオペレーション経費に配分される。Bendine 前総裁の下で策定された5か年計画では、開発・生産分野に総額800億ドルの投資を予定していた。

また、ブラジル政府がペトロbras社による全てのプレサル鉱区開発に対する最低30%出資及び単独オペレーターとする義務規定を解除することを決定。同社は今年度以降実施されるプレサル鉱区開発案件で選択と集中を行う環境が整いつつあり業界もペトロbras社の今後の動きに注目している。

2021年までの生産目標は図表87となっており、ブラジル国内の石油と天然ガスを合わせた生産量は334万バレル/日（石油が277万バレル/日）と設定した。また、国内外合わせた日産量は341万バレルとなっている。

図表 87 石油ガスの生産カーブ
Oil, NGL and Natural Gas Production
(Million boed)



4. 1 組織

Bendine 前総裁の肝煎りで進められた組織の改編であったがテーマとした資産売却も進まず、汚職問題の拡大も足枷になり、巨額債務の解決や現実的なビジネスプランの構築、

強力な労働組合との折衝、そして政府の直接介入への対応など同総裁の手腕が十分発揮されない状態が続き、2016年5月、Pedro Parente氏が後継のペトロbras総裁に指名された。同氏はブラジル大学で技術工学を修めた後、ブラジル銀行、ブラジル中央銀行、IMF顧問、内閣官房、企画省、鉱山エネルギー省で勤務、2010年から2014年は穀物大手企業 **Bunge Brasil** の社長を務めペトロbras社の再復活を図るための実務派ベテランとして迎えられている。Parente新総裁は **Bendine** 前総裁が進めていた基本組織の構想を踏襲、新しく設けられた経営戦略部門に元 **BG Brasil** 社の **Nelson Silva** 氏が新しく就任した以外は同じ役員構成となっている。

2月現在の組織は図表 88 の通り。

図表 88 ペトロbras社の新組織

